

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／差別と偏見の社会学 (Sociology of Discrimination and Prejudice)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	差別する可能性に気づく		
担当者名 (Instructor)	矢吹 康夫(YABUKI YASUO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	他学部生用(人数制限: 50名) 社会学部生は科目コード登録用コードにて申し込むこと		

授業の目標(Course Objectives)

「差別はよくない」は確かに反論できない正義としてあるかもしれないが、だからといって「差別意識をもつのはよくないから、差別について考えるのもよくない」わけではないし、「差別について考えない／知らないわたしは差別問題とは関係がない」「差別問題は特殊な人びとの特殊な問題だ」というわけでもない。この授業では、「ポリコレ疲れ」などといって目をそらすのではなく、差別をどこにでもある身近な現象としてとらえ直し、「差別をするかもしれないわたし」に目を向けることをめざす。なぜなら、差別問題とは言い換えれば他者理解の問題でもあり、日々得体の知れない他者と出会う私たちが当たり前遭遇する問題だからである。なお、差別をされていない人びとが現状の社会構造に安住しているから差別が温存・再生産されていることをふまえるならば、身近な問題として差別について学ぶことは、マジョリティを自認している、あるいは自認する必要すら感じていない人びとに自省を迫り、場合によっては不快感を与えることになるかもしれない。そういうときにはつい、「差別だと騒ぎ立てるほうが悪い」「そっちのほうが差別だ」などと過剰防衛に走ったり、「そんなことまで差別と言われたら何も言えなくなる」と萎縮したりするかもしれない。だがこれは差別問題と向き合うときに不可避のジレンマでもあるので、違和感や居心地の悪さを感じたら思考停止するのではなく、むしろ自身が生きるこの社会を問い直すチャンスだと思って活用してもらえれば幸いである。

Indeed, argument in favor of discrimination is weak, but we should not shun discussion about discrimination just because awareness of discrimination is negative. Distancing ourselves from discrimination intellectually or leaving the problem to specific populations are not the solutions. In this class, students will not be confined by political correctness. They will face the issue and realize that discrimination is all around them and how close they are to committing discrimination. In other words, discrimination is problem of understanding others. This problem is natural because every day we meet strangers.

Furthermore, discrimination has been able to survive and reproduce because non-discriminated people are living comfortably in current social structure. To recognize discrimination as a problem close to us, those with or without self-awareness as a majority must admit the problem and conduct self-reflection. Depending on the situation, some people may not be comfortable with it. Some people will take up overtly defensive stance by claiming that causing chaos is worse than discrimination or shifting the blame. Some will retreat by claiming that putting labels of discrimination will make people to keep their opinions to themselves. However, this is an unavoidable dilemma when facing discrimination. Students should not stop thinking because of the discomfort or unease. Students should use this opportunity to rethink about the society they live in.

授業の内容(Course Contents)

前半の数回でまず、差別を「意識」としてではなく「行為」としてとらえる視点を学ぶ。さらに、差別だと批判された人びとがどのような言い逃れをしてきたのか知ることとおして、同じ醜態をさらしてしまわないよう注意を促す。

そのうえで中盤以降は、著名人による相次ぐ差別発言(と炎上)やネット上での誹謗中傷、ヘイトスピーチと排外主義など、具体的な事例を取り上げ、自分とは異質な他者への理解を深めていく。

In the first few classes, students will acquire perspective to think about discrimination as action, instead of awareness. In addition, students will know how people talk themselves out of discrimination and pay attention so that they will not fall into the same disgraceful condition.

In recent years, various issues have been center of attention and fiercely discussed, including discrimination speech (or incite) by celebrity, slandering on the internet, hate speech, and exclusionist doctrine. After the midterm, students will select specific cases involving these issues to deepen their understanding of other, different people.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス:寝た子を起こす論の誤り
2. 「差別するつもりはなかった」という言い訳
3. 「差別と区別は違う」という言い訳
4. 「よかれと思ってやったのに」という言い訳
5. 「冗談を本気にするな」という言い訳
6. 「される側が悪い」という二次加害
7. 「やり方が悪い」という二次加害
8. 「大したことではない」という二次加害

9. 「社会のためにやった」という開き直り
10. 「がんばっていてすごい」という称賛
11. 「美しい」という称賛
12. 「リスペクトしている」という言い訳
13. 「ポリコレ疲れ」という言い訳
14. まとめ: 差別の加害者にならないために

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業資料はすべて Blackboard または Google ドライブ にアップロードします。配付資料には、OPAC や出典となった記事のリンクを埋め込むので、各自で予習・復習に活用してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内小テスト(ほぼ毎回)(60%)/期末レポート(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 好井裕明編、2016、『排除と差別の社会学』(新版)、有斐閣 (ISBN:9784641281400)
2. 中島勝住、2017、『〈差別ごころ〉からの〈自由〉を』、阿吽社 (ISBN:9784907244286)
3. 金明秀、2018、『レイシヤルハラスメント Q&A』、解放出版社 (ISBN:9784759262278)
4. 森山至貴、2020、『10代から知っておきたい あなたを閉じこめる「ずるい言葉」』、WAVE 出版 (ISBN:978-4866213033)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

春学期の「共生社会論」を受講していることが望ましいが必須ではない。

注意事項(Notice)